

ダイカスト生産のパイオニア企業 業務を見直し効率化や高齢者活躍を推進

ダイカストのパイオニア的存在として、国内外へ輸送用部品を中心とした製品を長年にわたり提供。1995年、激変する市場環境に素早く対応し、フィリピンへ進出。また、2010年には技術立社を目指し、テクニカルセンターを設立。2011年には環境配慮型工場を宣言し、排出ガス削減活動を開始。C-TPM活動を根付かせ、全従業員一丸となって改善取り組み。技術と英知と情熱を結集させ、可能性豊かなダイカスト分野でお客様に選ばれ続ける100年企業を目指して活動している。

● 所在地 群馬県伊勢崎市境東新井1048-19
● 電話/FAX 0270-76-3501/0270-76-2582
● URL <http://www.gkg-gr.com>
● 代表者 代表取締役 六本木 純一

● 設立 1947年
● 資本金 15,000万円
● 従業員数 106人



生産性向上

少子高齢化を見据え、先端技術やロボットを積極導入

少子高齢化を見据え、ヒトにやさしい職場環境を実現すべく、先端設備やロボットを積極的に導入。全数検査を求められる外観検査では、市販品ではなく公設試験研究機関と共同開発した画像処理装置を導入し、検査員の負担軽減とヒューマンエラーの削減により、品質向上と効率化を実現。また、ダイカスト製品では「バリカキ」という製品から余分なアルミを除去するための人出での作業があるが、これをロボット化し作業環境を改善するとともに、人員配置転換による付加価値の向上を実現している。



画像処理による外観検査自動化の試験導入

全社的な業務見直しによる無駄の徹底排除

直接部門では、製造ラインの作業の「見える化」を進めている。設備故障をランプで表示して、作業員全員が把握し易いよう工夫。ランプの色によって、設備保全マンが直ちに出勤し、ライン停止時間の無駄をなくしている。また、一つの作業が特定の人しか行えない状態では作業全体の停滞が発生し易いため、この状態を回避するためにも作業の「見える化」を推進している。更に、間接部門では、ITの活用で重複入力なしにボタンひとつで現品票を印刷する仕組みを、公設試験研究機関と共同で構築した。



設備状況のランプ表示による見える化

高齢でも活躍し続けられる会社づくり

少子高齢化の背景により、高齢者の技術・技能の活用と新規採用者の確保が経営課題となっている。これに対応するため、労働生産性の向上に取り組む。業務の重複・無駄の見直しや、前述のように「バリカキ」という製品から余分なアルミ材を除去する工程等にロボットを導入。作業負担軽減に加え30～50%の労働時間を短縮し、高齢者でも可能な軽作業化、作業環境改善による人材の採用・定着化を推進。更に、高齢のベテラン社員が現場改善を牽引し、作業の文書化、OJTによる技術・技能の伝承を行っている。



ロボット導入によるバリカキの自動化

ものづくり